8. 近代英語

要点

1. 初期近代英語期，英語が抱えていた悩みとは？
2. 英語史最大の謎ともいえる大母音推移とは？
3. 後期近代英語期，規範主義が確立した背景は？

現代英語の特徴（復習）

+1. Cosmopolitan Vocabulary

+2. Inflectional Simplicity

+3. Natural Gender

– 4. Idiomatic Expressions

– 5. Spelling-Pronunciation Gap

外面史の年表

1. 1485 年, Henry VII, (　　) 王朝を開始
2. 1534 年, Henry (　　), (　　) を設立（宗教改革）
3. 1558 年, Elizabeth I が即位
4. 1564 年, (　　) 誕生 (〜1616 年)

5. 1588 年，スペインの (　　) を破る (#254, #255)
6. 1603 年，James I，(　　) 朝を開始
7. 1607 年，(　　) への入植
8. 1611 年，Authorised Version，(　　) Bible が完成

9. 1649 年, 革命により (　　) が死刑，共和制へ
10. 1660 年, Charles II による (　　)
11. 1707 年，(　　)，英国に統合
12. 1755 年, (　　) 出版
13. 1760 年〜，(　　)
14. 1763 年，フランスより (　　) を

獲得

15. 1776 年, (　　)
16. 1788 年, (　　) への植民
17. 1837 年, Queen (　　) の即位
18. 1840 年, (　　) の統治
19. 1858 年, (　　) の統治
20. 1858 年〜, (　　) の編纂

(　　) 語の使用と語彙の問題

1. (　　) による古典の復活
2. (　　) 語を使うべしとの風潮
3. 16 世紀半ばを頂点に約 (　　) のラテン語が流入 (#478, #114)
4. 「インク壺用語」 (　　) の
5. 約 (　　) は後に消えた (#110)

インク壺用語の例

1. 生き残ったもの: *absurdity*, *conspicuous*, *contradictory*, *delirium*, *demonstrate*, *exotic*, *frivolous*, *insinuate*, *meditate*, *obstruction*
2. 死語となったもの: **adnichilate*, **deruncinate*, **fatigate*, **splendidious*

英語の使用と（　　）の問題

1. 16 世紀半ば，（　　）への回帰
2. ex. *astound*, *blatant*, *mickle*, *nathe-less*, *whilere*
3. （　　）により自国（語）への意識が高まる
4. 正書法（　　）への関心も (#441)

語源的な綴字の挿入

(　　)

1. 学者，綴字を (　　) 語に近づける
2. 多くは (　　) は変わらず乖離が生じた
3. ex.　*Anthony*, *author*, *debt*, *doubt*, *falcon*, *indict*, *island*, *perfect*, *realm*, *receipt*, *salmon*, *subtle*, *throne*

(　　) の代名詞の使用

1. All debts are cleerd between you and ( ): (*me*) (#301)
2. you have seene Cassio and (　　) together: (*her*)
3. I feele (　　) much to blame: (*myself*)

( ) comparatives and superlatives (#195)

1. This was the ( ) cut of all: (*most kind*)
2. for the ( ) assurance: (*better*)
3. the ( ) welcome: (*worse*)

品詞転換 (　　) (#190)

1. (　　) の得意技
2. 屈折の (　　) により転換が容易に.
3. cf. “Buffalo buffalo buffalo buffalo buffalo”. (#264)

大母音推移

英語の母音字 <A, E, I, O, U> はなぜ

(　　)

ではなく

(　　)

と発音するか？

なぜ綴字と発音は乖離するか (#62)

綴字と発音は原則として対応するが，この原則は (　　) とともに徐々に崩れてゆく傾向がある．それは，(　　) は変化しやすい一方で，(　　) は変化しにくいからである．一方で「綴字＝発音」の原則を守ろうとする力が働いていることも確か．　cf. (　　) (#211)

GVS (　　)

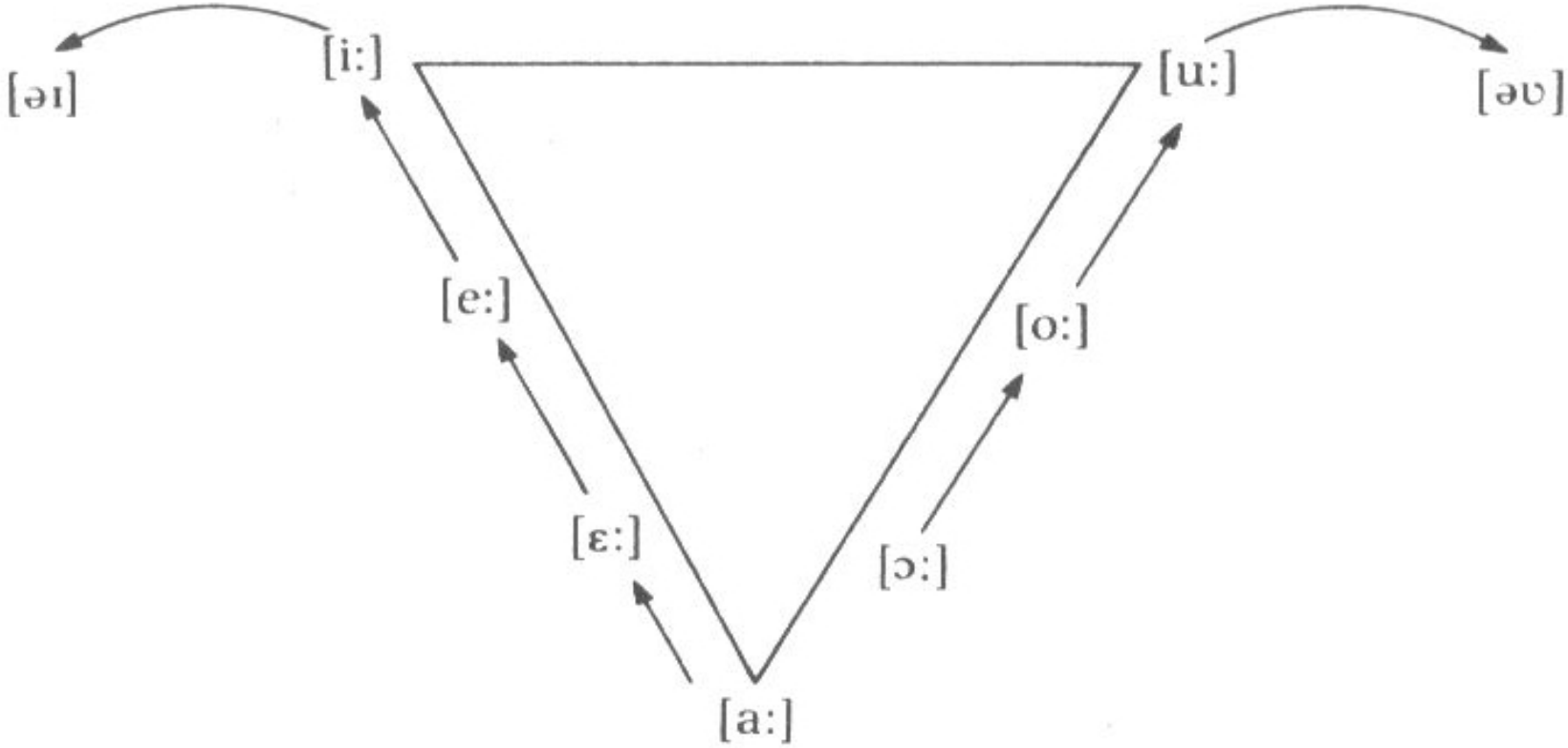
1. 英語における綴字と発音の乖離の最大の原因
2. およそ (　　)–(　　) 年にかけて
3. (　　) のある (　) 母音に対して (　　) で (　　) 的に起こった変化

母音を決めるパラメータ

(#19, #118)

1. 舌の (　　)（口の開き）
2. 舌の (　　) の位置
3. 唇の (　　) の有無

GVS の仕組 (#205)



GVS の進行

ME	GVS		LModE	examples
	Stage 1	Stage 2		
iː	əɪ		aɪ	(　　)
uː	əʊ		aʊ	(　　)
eː	iː			(　　)
ɛː	eː	iː		(　　)

ME	GVS		LModE	examples
	Stage 1	Stage 2		
oː	uː			( )
ɔː	oː		oʊ	( )
ɑː	ɛː	eː	eɪ	( )

GVS の諸説

1. [aː] から始まった (　　) chain か？
2. [iː, uː] から始まった (　　) chain か？
3. [eː, oː] から始まった両 chain の組み合わせか？
4. 各長母音が (　　) に変化したのでは？

GVS の例外 (#206, #207)

1. (　) 音 ([w, j, m, p]) の前後の [u:] は GVS を受けなかった

   ex. *wound*, *youth*, *you*, *tomb*, *poor*

2. ME [ɛː] は通常 2 段階上昇したが少数のものは 1 段階のみ上昇

   ex. *great*, *break*, *steak*, *yea*; *wear*, *swear*, *pear*

<oo>にみる GVS とその後 (#547)

1. <oo>の綴りで表される音は古くは [o:] だったので GVS により [(　)] へ.
   ex. *mood*, *food*, *tooth*
2. その後, 一部の単語群は [(　)] へ短化.
   ex. *book*, *good*, *look*, *stood*
3. さらにその後, [(　)] へと中舌化.
   ex. *blood*, *flood*

GVS のその他の話題

1. GVS の後に英語に入ってきた（　　）は当然 GVS を受けていない． ex. *madame*; *group*, *rouge*, *soup*; *motif*, *police*, *unique*
2. 以下の母音差に注目． ex. *divine*/（　　），*vain*/（　　），*clean*/（　　），*crime*/（　　），*sign*/（　　）

GVS の意義

1. 英語における（　　）と（　　）の乖離の最大の原因
2. 皮肉にも，（　　）の印刷の普及によって綴り字が確定しつつあった時期に始まった
3. 原因と過程がいまだもって不明である英語史最大の謎

18 世紀の言語意識

1. 理性の時代 (　　)
2. 言語を規制する (　　) 設立の問題 (#134)
3. 理性か慣用かの論争 cf. Jonathan (　　)
4. 文法：1764 年，(　　) の規範文法 (　　)
5. 語彙：1755 年, (　　)'s *Dictionary*

規範文法（　　）

(#124, #141, #301)

1. 英語を規準化し（　　），洗練し（　　），固定化したい（　）という潮流
2. Robert（　　）の文法書が一世風靡
3. 後の（　　）に多大な影響
4. 理性に基づいた文法観

規範文法の例

1. 自動詞 *lie* と他動詞 (　　) の区別をつけるべし
2. (　　) の所有格として *whose* を用いるべからず
3. *it is me* ではなく *it is* ( ) とすべし
4. 文末に (　　) を置くべからず

5. 二つ以上のものには *between* を，三つ以上のものには (　　) を使うべし
6. *the oldest of the two* ではなく *the* (　　) *of the two* とすべし
7. 二重 (　　) は使うべからず
8. *to fully understand* などの (　　) は使うべからず

辞書の編纂

1. 慣用派の Samuel (　　) による *A Dictionary of the English Language* (1755)
2. (　　) を固定化するのに貢献
3. 後の (　　) の編纂にも多大な影響を

OED の編纂 (#304)

1. (　　)
2. 約 (　) 万語を納める世界最大の英々辞書
3. 1858 年に編纂開始し，1928 年に完成
4. 現在第 3 版が編纂中
5. (　　) 原則に基づき，初出年の情報を含む

現代英語の規範文法は

1. (　　) 派と (　　) 派の妥協の産物
2. (　　) ではなく, (　　) によって定められた
3. よくいえば (　　) 的，わるくいえば (　　) 的な規範
4. よくもわるくも，この規範が世界へ

近代英語期の借用語

( ): *exit*, *area*, *focus*, *extra*

( ): *drama*, *idea*, *energy*, *camera*

( ): *vase*, *role*, *unique*, *police*

( ): *concert*, *opera*, *piano*, *influenza*

( ): *mosquito*, *parade*, *guitar*, *cigar*

( ): *massage*, *flamingo*

( ): *yacht*, *iceberg*, *boss*

( ): *nickel, waltz, zigzag, kindergarten*

( ): *troika, balalaika, mammoth*

( ): *algebra, assassin, zero*

( ): *bungalow, yoga, curry, shampoo*

( ): *Chimpanzee, zebra*

( ): *boomerang, kangaroo*

( ): *chop-suey, tea*

( ): *jujitsu, kimono*

まとめ

1. 初期近代英語期，英語の（　　）に悩む
2. 綴字と発音の乖離における（　　）の役割
3. 後期近代英語期，理性と慣用を折衷した（　　）の確立